

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

6月4日に仏国シャンティイ競馬場で行われた、第183回ジョッケクルブ賞(=仏国版ダービー)を制したエースインパクト(牡3)が、今月のこのコラムの主役である。

近年の仏ダービーは、欧州10F~12F路線の主役を生み出すレースとなっている。例えば、19年の勝ち馬ソトサスは翌年G1凱旋門賞(芝2400m)に優勝

したし、20年の勝ち馬ミシユリフはその後、サウジC(d1800m)やG1インターナショナルS(芝10F56Y)を制する多彩な活躍を見せた。21年の勝ち馬セントマーカスバシリカはこの年、G1ばかり4戦して無敗の4連勝をマークして欧州年度代表馬の座に就いたし、22年の勝ち馬ヴァデニも、その後G1エクリプスS(芝9F209y)を制し、欧洲最優秀3歳牡馬となつている。その仏ダービーの23年版を、デビュ以来無敗の4連勝で制したエース

インパクトは、今後のさらなる活躍が保証されていると言つても過言ではなかろう。しかもエースインパクトはそのレース振りも鮮烈なのだ。仏ダービーで馬群が4コーナーを廻った時の、同馬のポジションは11頭立ての10番手だった。直線に向くと馬場大外を矢のように伸びたエースインパクトは、残り120mで先頭に立つ

のだ。同馬が上がり3Fで使った脚は34秒01で、2番目に上がりが速かつた3着馬マルハバヤサナフイ(牡3、父ムハーラー)の35秒08を、1秒以上上回っていたのである。まさに桁違いの瞬発力を發揮し、「インパクト」の本家であるディープインパクトを彷彿させるパフォーマンスを見せたのだった。

独国と仏国で走り、準重賞での入着を2度経験したアブソルートミーの5番仔として、愛国で生まれたのがエースインパクトだ。

父は、怪物フランケルの初年度産駒の1頭で、現役時代はジョン・ゴスデンが管理したクラックスマンである。G1英ダービー(芝12F6Y)3着、G1愛ダービー(芝12F6Y)2着と、3歳春のクラシックは惜敗に終つた後、3歳秋にG1チャンピオンS(芝9F212Y)を制し、G1初制覇を果したのがクラックスマンだ。4歳時には、連覇を果たしたG1チャンピオンSの他、G1方ネイ賞(芝2100m)、G1コロニーS(芝12F6Y)に優勝した後、19年にダルハムホールスタッドにて種牡馬入り。初年度の種付け料は2万5千ポンド(当時のレートで約363万円)だった。エースインパクトは、そのクラックスマンの初年度産駒の1頭となる。

1歳夏にアルカナ・ドーヴィル1歳セールに上場されたエースインパクトは、7万5千ユーロ(当時のレートで約980万円)でトップトレーナーのジャン・クラウド・ルジエ調教師に購買され、3歳の1月26日にデビュー。カンスマールの条件戦(W2000m)に出走し、そこを3.1/2馬身差で制してデビュー勝ちを飾ると、2戦目となつたボルドールブスカの条件戦(芝1900m)も2馬身差で連勝。するとルジエ師は、同馬の3戦目にシャンティイのJRCユース賞(芝2000m)を選択。ここも1.3/4馬身差で制して臨んだのが、仏ダービーだった。

エースインパクトは父クラックスマンにとって、2頭目の重賞勝ち馬にして、初のG1勝ち馬となつた。

ブックメーカー各社は秋のG1凱旋門賞へ向けた前売りで、無敗の仏ダービー馬エースインパクトに8倍前後のオッズを提示し、2~3番人気としている。ここで、オッズ6~7倍の1番人気に推されるのは、仏ダービーの前日に行われたG1英ダービー(芝12F6Y)を制した、ディープインパクト産駒のオーギュストロダン(牡3)だ。エースインパクトが今後、3歳夏から本格化した父同様の成長曲線を描き、さらに強さに磨きをかけてくるようなら、オーギュストロダンにとつて容易ならざる敵になりそうである。

1/2馬身差で抜けて見せた

1歳夏にアルカナ・ドーヴィル1歳セ

ルに上場されたエースインパクトは、7万5千ユーロ(当時のレートで約980万円)でトップトレーナーのジャン・クラウド・ルジエ調教師に購買され、3歳の1月26日にデビュー。カンスマールの条件戦(W2000m)に出走し、そこを3.1/2馬身差で制してデビュー勝ちを飾ると、2戦目となつたボルドールブスカの条件戦(芝1900m)も2馬身差で連勝。するとルジエ師は、同馬の3戦目にシャンティイのJRCユース賞(芝2000m)を選択。ここも1.3/4馬身差で制して臨んだのが、仏ダービーだった。

エースインパクトは父クラックスマンにとって、2頭目の重賞勝ち馬にして、初のG1勝ち馬となつた。

ブックメーカー各社は秋のG1凱旋門賞へ向けた前売りで、無敗の仏ダービー馬エースインパクトに8倍前後のオッズを提示し、2~3番人気としている。ここで、オッズ6~7倍の1番人気に推されるのは、仏ダービーの前日に行われたG1英ダービー(芝12F6Y)を制した、ディープインパクト産駒のオーギュストロダン(牡3)だ。エースインパクトが今後、3歳夏から本格化した父同様の成長曲線を描き、さらに強さに磨きをかけてくるようなら、オーギュストロダンにとつて容易ならざる敵になりそうである。